

神田小の誇りは「明るい笑顔」と「元気なあいさつ」：すべては神田の子の「希望をはぐくむために」



# 学校だより

No. 11 さいたま市立神田小学校

令和8年2月27日発行 Tel (853) 4377  
URL : <http://jinde-e.saitama-city.ed.jp/>

## 学校教育目標

○人間性豊かで 21世紀を

たくましく生きる神田の子

・かしこく・たくましく・あたたかく

## 神田の誇り

校長 中村 誠

早いもので、令和8年を迎えてからすでに2ヶ月が過ぎ、まもなく新年度を迎える時期となりました。本年度も、明るく元気に学ぶ子どもたち、そして温かく見守り支えてくださった保護者の皆様、さらに日頃より本校に深いご理解とご協力をお寄せくださった地域の皆様をはじめ、神田小学校に関わるすべての皆様のおかげをもちまして、子どもたちとともに令和7年度を歩み切ることができようとしております。心より感謝申し上げます。

年度の締めくくりにあたり、改めて深い感謝の意をお伝えするとともに、令和8年度の新たな歩みを、皆様とともに力強く進めていきたいと存じます。今後とも引き続き、ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

さて、先日行われた学校運営協議会の場で、委員の皆様と代表の児童との会食した際に、この地域の歴史について貴重なお話を伺うことができました。昭和30年代、この地域では、駅へ向かう道路が十分には整備されていませんでした。将来のためにと考え、地域の人々は互いの土地を提供し合い、みんなで協力し合って道路の整備を始めたのです。重機などは使用せず、牛車、スコップ、ツルハシなどを使って手作業で、長い年月をかけて道路を整備したとのこと。それは大変な作業であったと思います。しかし、この地域の未来のためにとの思いから地道に整備をしてくれた結果、バスが通るほどの道路となったのです。そうした努力があったからこそ、今の神田地域があると言っても過言ではありません。そのお話を伺い、地域の皆様が昔から神田の地を愛し誇りを守り続けてこられたことを、あらためて強く感じました。

そもそも、なぜ「神田（かんだ）」ではなく「じんで」と読むのでしょうか。もともと、この地は伊勢神宮の御領地であり良質なお米が収穫できたため、その新米を神宮に献納していたと伝えられています。そのことから「神田（しんでん）」と呼ばれ、時を経て現在の「神田（じんで）」と呼ばれるようになりました。神に献上するほどの米を育んだ、由緒ある地域であることが分かります。また、同じ学区にある白楯地域は、古代から集落が営まれ、南北朝時代から「しらくハ」と呼ばれていた歴史深い地域です。さらに、上大久保地域や大久保領家地域は、古くは「大窪郷（おおくぼごう）」と呼ばれた集落から始まり、江戸時代には役所が置かれていた伝統ある地域です。このように、文化と歴史の息づく地域で、子どもたちが健やかに育つことができるのは、地域の皆様が伝統を大切にしつつ、未来を担う子どもたちのために尽力してくださっているおかげであり、心より御礼を申し上げます。私たち教職員は、皆様から寄せられる温かい思いとご期待に応えるべく、「神田」の名に恥じぬ学校教育を推進していく決意です。

これからも、子どもたちの健やかな成長のため、地域・保護者の皆様とともに歩み続けてまいります。残りの令和7年度、そして、4月から始まる令和8年度においても、変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。